

2017年12月15日 第3226回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 小林 会長
<斉 唱> 「それこそロータリー」
<ゲスト紹介> *公益財団法人国際人材育成機構 業務執行理事 渡貫 伸二様
*公益財団法人国際人材育成機構 業務推進部担当部長 西崎 高史様
*米山奨学生 金 穂 勅様

- <会 長 報 告> *第1グループ三役会報告
*ガバナー事務所よりインターアクト海外研修の件について
研修日：12月23日(土)～26日(火) 3泊4日
研修地：台湾・台北 (RI3481地区)
参加者：三浦学苑IACより3名、顧問教諭1名、高橋IA委員長

- <委員長報告> *ローターアクト委員会 曾我委員より横須賀ローターアクトクラブ例会報告とご案内

- <幹 事 報 告> *週報・・横須賀西RC/横須賀南西RCより受領
*ガバナー月信 No. 6
*例会終了後第6回理事役員会開催 (例会場)

- <出 席 報 告> *出席委員会 植田委員長より12月15日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出 席 数	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
114名	98名	65名	33名	4名	70.41%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 公益財団法人国際人材育成機構 業務執行理事 渡貫伸二様、業務推進部担当部長 西崎高史様 ようこそお越しくございました。
- ・北 村、加藤 勲、福 西、井 莉、植 田、岩 瀬、谷、
薦 野、鈴木 勲、勝 間、大 竹、三 堀、長 坂、物 井 各会員
公益財団法人国際人材育成機構 業務執行理事 渡貫伸二様、業務推進部担当部長 西崎高史様本日の卓話よろしくお願ひ致します。
- ・佐久間、前 川、齋藤 勲 各会員 米山奨学生、金 穂勅様ようこそお越し下さいました。
- ・兼 城 会員 入会月祝いとして
- ・三 役 職場体験学習に向けての事前ガイダンス、八木会員の講師素晴らしかったです。来年もよろしくお願ひします。
- ・八 巻、瀬 戸、井 莉、波 島、澤 田、田 邊 各会員
横須賀学院職場体験学習ガイダンスで、八木会員の大変素晴らしい講義に同席した先生、ロータリアン全員感動していました。
- ・猿 丸、角 井、鈴木 勲、兼 城、濱 田、齋藤 勲、長 堀、白 井 各会員
来週はいよいよ家族会です。親睦委員会の皆様、楽しみにしております。
- ・上 林、門 井、澤 田、曾 我、小林 (-) 各会員 12月12日に開催されたローターアクト例会&忘年会、大変楽しませていただきました。
- ・佐久間 会員 ガバナー月信の表紙だけでなく、4頁には5枚も私の顔が出てしまいました。
- ・吉田 勲 会員 長堀先生、先日は大変お世話になりました。
- ・八 木、岡 田、勝 見 各会員 写真をいただいて

- <卓 話> 「外国人技能実習制度 制度概要」

公益財団法人 国際人材育成機構

ご紹介いただきました、渡貫でございます。このような会場にご招待いただきましてありがとうございます。「外国人技能実習制度」というのを、私どもの活動も交えて少しお話をさせていただければと思います。

私どもは受け入れをしている管理団体の1つなのですが、公益財団ということで、技能実習制度の活用について全国でご案内させていただいておまして、今日はこのような機会をいただいた事に感謝申し上げます。

私どもは、インドネシア、タイ、スリランカ、ベトナム、バングラデシュという国・政府、日本でいう労働省と提携をしまして、そのリクルートした人間を受け入れて、企業



さんへご案内するのですが、これは平成5年から、来年で25年になります。インドネシアが最初で、在留生も含めて約4万人の実習生を受け入れました。その中で、およそ3万数千人が帰国しているのですが、日本で勉強した技能、仕事の進め方、時間管理等々を体験して、国に帰って社長になっています。はっきり分かっているだけでも約7,000人の社長さんが生まれております。

しかし、この実習制度というのは、誤解を招く部分もあり、実習生の保護の観点から、この11月1日に新しい法律が施行されました。われわれ管理団体も、一般管理業許可団体として5年まで実習生を受け入れることができる許可をいただいています。

これは、AIM・ジャパンの沿革なのですが、25年間で約4万9,000人の実習生を受け入れておまして、現在、北海道から沖縄まで約8,000人の実習生が企業さんで仕事をし、勉強させていただいております。

インドネシア、タイ、ベトナム、バングラデシュ、スリランカと5か国の、日本でいう労働省と提携をさせていただいている。こういうのはAIM・ジャパンのみでございます。

今、技能実習生は、日本にどれだけいるのかという統計の問題です。技能実習生は、日本国中に約23万人おります。国も力をいれていると思いますが、中国に代わりベトナムの実習生、留学生在が日本に相当数来ておられます。AIM・ジャパンに限っていいますと、インドネシアが約6割弱、タイ、ベトナム、こんな感じで、今、約8,000名の人たちが北海道の知床辺りから沖縄の宮古島で実習を受けています。

これらの国からどのように来られるかというと、本国の労働省の施設を使って、日本語の勉強等をしまして、日本で生活するためのいろいろな風俗習慣等も勉強して参ります。

事前勉強するための学校に入るためのいろいろなテストがあるのですが、体力テストは、男性の場合は3キロ15分以内、腹筋25回、腕立て35回等。やはり、遠く一人で勉強しに来るものですから体力も必要だということです。どうしても日本に来たいということで、1回落ちても2回、3回、体力をつけて一生懸命にやってくる子もいます。

実習生が企業に配属される前に、社長さん宛に「私はこんな所が」、「こういう所から来て」、「それで企業に入ったらこんな勉強をして、帰ったら社長になります」と、こんな意欲を作文します。昨日も日本語の作文コンクールをやったのですが、1,000通ばかり集まりまして、選考するのに苦労いたしました。

企業さんに受け入れていただくにあたり、いろいろな制約がございます。1つは、受入れ人数制限で、企業の常勤職員の数が30人以下ならば3人まで、100人ぐらいですと、20%、5人、6人まで受け入れられます。

先ほど一般管理事業ということでご案内させていただきましたけれども、この辺のところでは後々は、私どもを通じて受ける場合には、この基本人数の倍を受け入れていただくということになります。

この本国の写真は一昨年8月にやった社長の会でございまして、労働大臣もみえたり、それでこの下の方々は、すべて社長さんです。今年はなんと7,000人というようなデータもありまして、当日は、4,000名の社長さんが全国各地からおみえになったということで、非常に盛大にやらせていただいております。

これから少し成功事例になるのですが、これはアチェというスマトラの一番北側にある町で、以前、インドネシア地震のときにも、相当被害があったところなのですが、ここから実習生が来て、このアチェで起業して、この受け入れていただいた企業さんと提携して、いろいろな正規品をつくったりしているということでございます。

この方は、浜松で機械加工の勉強をして帰って、勉強したものと違うのですが、縫製工場を起業して、今、500人の社員を抱えて、経営者社長になっています。なぜ成功したかという、日本での社長さんに教えてもらったこと、「規律・時間を守る」とか「従業員を大切にする」、この学んだことを実践しているのです。縫製工場ですから女性が多い。ですから当然、若い方々は結婚して子どももいるので、工場の中に保育所をつくったり、病院をつくったりしています。受け入れてくれた社長さんの教えどおり従業員・社員を大事にすることを実践していったら、近郷近在から、是非、この会社に入りたいという人が集まり500人になりました。この会社は100%、EUやアメリカに、製品を輸出しているところでございます。

次に、この人は、日本の建設会社で勉強して、インドネシアのバリ島の隣にロンボク島という小さな島があるのですけれども、そこで建設会社をつくりました。この写真は空港と大学なのですが、これをつくった社長でございまして。これは今、270名なのですが、こんな社長さんもおります。この写真の右の方です。

このタイから来た実習生なのですが、日本に来たときには、確か1,000円ぐらいしか持ってなかったらしいのですけれども、一生懸命勉強して帰って、今は航空機用の精密部品をつくる会社の社長になっています。ここにありますように日本で勉強をしたので、上はタイ語なので、私も読めませんが、下は、これは看板の写真なのですが、株式会社開発改善エンジニアリングという日本名の会社の看板も付けているという形で、こんな成功事例もあります。

ここには載せていないのですが、最近、日本ファンの実習卒業生が増えています。これもインドネシアの例なのですが、インドネシアは、島が多く発電の機械もあまりありません。そのためソーラーパネルが多く設置されているのですが、そのソーラーパネルを設置する会社をつくった実習生がいるのです。そうすると、中国や韓国等から安い機器の売り込みがあるようなのですが、自分は日本で勉強したのだから、日本の製品を使いたい。彼はパナソニックのソーラーパネルと言っております。そういう形で日本びいきが増えてきています。この実習生と日本の受け入れ企業さんだけではなくて、いろいろな企業さんとの交流も始まっていますし、さらに厚くなっていくのかなという感じがあります。

ちなみに、日本で勉強して帰って、結婚して子どもが生まれたときには、自分の娘に「花子さん」とか、そういう名前を付けているケースもあるやに聞いております。

あとは、これは、いろいろ勉強するのですが、勉強する内容というのは、パンの製造、工場板金、これは溶接です。こういう仕事をするのです。鋳造とか機械加工。先ほど建設関係が多いと申し上げましたが、鉄筋の施工とか、型枠、とび、です。

こんな形でやっております、今まではこのように、ものづくりあるいは建設ということで仕事をさせておりましたけれども、昨今、少し職種のほうがも拡大しまして、お惣菜の関係あるいはビルクリーニングの関係、これはホテルでネットバンキングを勉強するとか、そんな感じ。あとは、特にこの11月からは介護の関係も拡大しました。

そんな関係もあってスリランカも最近提携したのですが、そんな形で職種も広がりつつあり、新聞報道によりますと近々、年が変わりますと、コンビニエンスストアへも実習生が入って、店舗経営・運営の仕方も勉強して、国に帰ってそのような仕事をすると、こんな動きもあるようでございまして、実習生を通じた国際交流です。日本の社会の健全な発展は当然なことなのですが、それ以上に、この開発途上国の経済発展を、実習生の卒業生を通じて協力していく、こんな形で今、仕事をさせていただいております、管理団体が今、日本国中に私どもを含めて2,000あるといわれております。

中には、事業協同組合さんとかいろいろあると思うのですが、そういった中で、是非一般管理団体というか、優良な管理団体、アトム・ジャパンに限らず選んでいただいて、そこからいろいろな実習生を受け入れていただく。尚且つもし機会がありましたら、アトム・ジャパンの実習生もご活用いただけるような機会をいただければと思います。

その辺りのところで今日は私、渡貫と業務担当の西崎が参っておりますので、是非そのような機会がございましたら、どこでも参りますので、よろしく願いしたいと思います。

今日は貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。

実は私、藤沢の生まれで、久しぶりに横須賀に参りまして、このような機会をいただきましたことを本当に感謝申し上げたいと思います。ご清聴いただきまして、ありがとうございました。

<閉 会> 13:30 小林 会長

週報担当 門井 宏二郎